

C-42 和服縫目の強度について（ゆかたの背縫いにおける糸と針目の強度）

昭和女大 大竹この 佐成郁子 邨田昌代 ○池田益子

目的 日常和服、とくにゆかたにおいて、布と糸と針目の関係は、大変重要なことである。そこで、大きな力のかかると思われる背縫いを設定し、また夏に着用することから丸洗いをすることが多いと考えられるので、洗たくによる強度の低下も含めて実験を行ない、布に合った糸・針目を得たいと思い本実験を行なった。

方法

布：市販白地一色染ゆかた。

糸：手縫用木綿糸 $\frac{3}{8}$ S, $\frac{2}{3}$ S。ミシン用カタン糸 $\frac{4}{3}$ S, $\frac{3}{8}$ S。

針目：0.3 cm, 0.4 cm。

縫い方：二度縫。

洗たく回数：3回, 6回, 9回。

上記の試料布の引張破断強度をテンシロンVTM4により測定。

結果

- ① 針目0.3 cmの縫目強度は、針目0.4 cmの場合より大きい。
- ② 縫目の強度は、洗たくによって低下する。
- ③ 布の織糸切れは、原布に多く認められた。糸の種類では手縫用木綿 $\frac{3}{8}$ Sを使用した場合に最も多く生じた。針目では0.3 cmと0.4 cmの間に差は認められなかった。